

DFTジョイント用切り欠き機

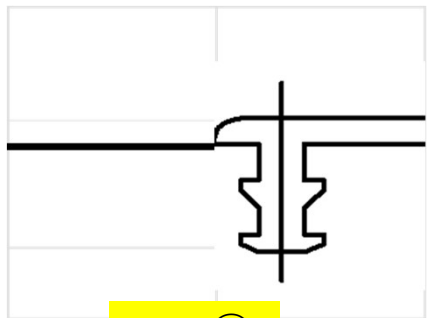
DFTジョイント研究会

DFTジョイント用切り欠き機の開発について

図①に示すようにDFTジョイントを設置するとコンクリートとDFTジョイントに段差が生じる、通常に施工する場合は、密着するように設置するので、問題無いと考えている。

一方、土地改良区等の農業用水利施設の維持管理団体では、高齢化等による人手不足で水路の土砂撤去に苦勞している。このため、ミニタイヤショベルやミニ油圧ショベル等の小型機械を活用し効率性を向上し、土砂撤去等維持管理を行う場合がある。この場合においては、DFTジョイント等の突起した目地を設置している場合、機械作業時に目地を破損することが懸念されている。

このような課題を解消するため、DFTジョイント研究会では、目地を設置する部分のコンクリート効率的に切り欠き、DFTジョイントを突起させない工法を開発した。



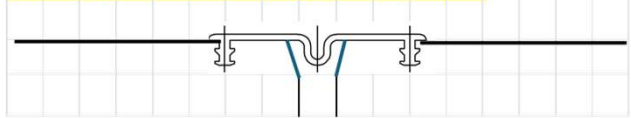
図①

農業用水利施設の維持管理

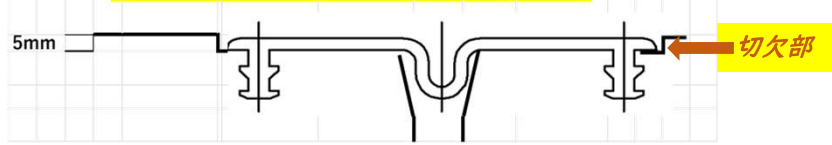


小型機械による水路土砂上げ作業

通常のDFTジョイント設置状況



切欠断面へのDFTジョイント設置状況



DFT用切欠機施工

DFTジョイント用切欠アタッチメント

100mmの刃8枚



通常のディスクサンダーに設置、消耗品の刃は交換可能

カップリング作業



8枚刃の切欠機で切欠後、カップサンダーにてカップリング

切り欠き機作業



100mm幅を8枚刃で側壁部切欠

100mm幅を8枚刃で底部の切欠

8枚刃の切欠機を使用し、深さ5mmの切込を設置

切り欠きカップリング作業完成



カップサンダーで仕上げ完成

切欠箇所のDFTジョイント施工

溝切り



DFTカッターによる溝切りにおいて、作業効率の低下は確認されなかった。

溝切り完成

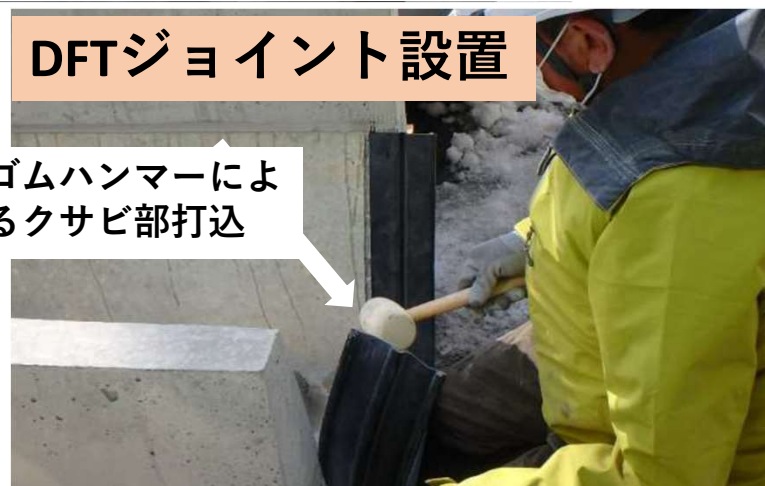


クサビ部設置溝完了

狭いスペースでも溝掘りに支障無く作業できた。

DFTジョイント設置

ゴムハンマーによるクサビ部打込



DFTジョイント打ち込み作業においても、作業効率の低下は確認されなかった。

DFTジョイント設置完了



切欠部にDFTジョイントが収まり水路内部への突出は無くなった